



## 2023年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月4日

上場会社名 株式会社アイスタイル 上場取引所 東  
 コード番号 3660 URL <https://www.istyle.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長CEO (氏名) 吉松 徹郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副会長CFO (氏名) 菅原 敬 (TEL) 03(6161)3660  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

## 1. 2023年6月期第1四半期の連結業績(2022年7月1日~2022年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第1四半期	9,200	18.2	237	—	158	—	101	—
2022年6月期第1四半期	7,784	3.7	△229	—	△238	—	△52	—

(注) 包括利益 2023年6月期第1四半期 △66百万円(—%) 2022年6月期第1四半期 △27百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第1四半期	1.40	1.22
2022年6月期第1四半期	△0.73	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第1四半期	27,784	9,729	33.7
2022年6月期	22,168	8,652	38.1

(参考) 自己資本 2023年6月期第1四半期 9,376百万円 2022年6月期 8,454百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年6月期	—	—	—	—	—
2023年6月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,000	16.3	500	—	170	—	30	—	0.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年6月期1Q	77,963,593株	2022年6月期	74,146,800株
② 期末自己株式数	2023年6月期1Q	2,693,567株	2022年6月期	2,693,567株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年6月期1Q	72,448,918株	2022年6月期1Q	71,453,233株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

化粧品業界におきましては、「新型コロナウイルス（COVID-19）」（以下、「新型コロナウイルス」という。）の影響により、消費者の購買意欲の低下や、外出自粛による化粧をする機会の減少、インバウンド需要の蒸発などにより、依然として景況感が厳しい状況にあります。しかしながら、今後は新型コロナウイルスの影響が徐々に緩和されることにより国内化粧品市場が緩やかに復調し、さらには当社グループのクライアントである化粧品ブランドの業績も回復していくものと見込んでおります。

当社グループは、国内でEC・店舗など小売サービスを展開するBeauty Service事業の小売販売力及び販促力を活かし、当該事業の売上高を伸ばすだけでなく、化粧品ブランドの業績にも貢献することで、当社メディアへの広告出稿、ソリューションサービスの活用、さらに当社グループのEC・店舗における販促サービスの利用を増やすことで好循環を形成し、On Platform事業の持続的な成長にもつなげていく所存です。これにより収益部門であるOn Platform事業及びBeauty Service事業が成長することで、更なる増収と通期での営業利益の黒字化を目指しております。

当第1四半期連結累計期間における業績は以下の通りです。

売上高におきましては、新型コロナウイルス感染者数の増加や台風など季節性の要因がありながらもBeauty Service事業の店舗が業績を牽引し、前年同期比で18.2%の増収となりました。これに加えて、On Platform事業において化粧品ブランドによるプラットフォーム活用が進んだことや、Beauty Service事業のECにおける継続的な成長が増収に寄与しました。

営業利益におきましては、Beauty Service事業の店舗やOn Platform事業の増収により、466百万円の増益となり黒字での着地となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	9,200百万円（前年同期 7,784百万円 / 前年同期比 18.2%増）
営業利益	237百万円（前年同期 △229百万円）
経常利益	158百万円（前年同期 △238百万円）
税金等調整前四半期純利益	158百万円（前年同期 △110百万円）
親会社株主に帰属する四半期純利益	101百万円（前年同期 △52百万円）

## ① On Platform事業

当セグメントには、当社が運営するコスメ・美容の総合サイト「@cosme（アットコスメ）」を基盤とした各種サービス（BtoB、BtoC）が属しております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、依然として新型コロナウイルスの影響によりクライアントの予算が保守化され厳しい環境ではありますが、化粧品ブランドによる当社のサービスの活用が促進されたことにより、取引量及び取引単価が増加となり前年同期比で増収となりました。

営業利益におきましては、増収の寄与に加えて、人材採用の遅れにより人材関連費用が抑えられたこともあり、増益となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	1,967百万円（前年同期 1,862百万円 / 前年同期比 5.6%増）
営業利益	393百万円（前年同期 240百万円 / 前年同期比 63.6%増）

## ② Beauty Service事業

当セグメントには、化粧品ECサイト「@cosme SHOPPING（アットコスメショッピング）」の運営、化粧品専門店「@cosme STORE（アットコスメストア）」や大型旗艦店「@cosme TOKYO（アットコスメトーキョー）」の運営等、国内における小売業を中心としたサービスが属しております。

売上高におきまして、ECでは、各種イベントで獲得した新規顧客の定着化および継続的なMD強化施策が功を奏し、前年同期比で10.7%の増収となり2桁成長を維持して伸長しました。店舗では、新型コロナウイルス感染者数の増加

や、台風の発生などありましたが、前期より人流の戻りが著しいことや店舗イベントにより客数が増え、増収となりました。また、大型旗艦店が過去最高の売上高を記録したこともあり39.5%の増収となりました。

営業利益におきましては、店舗の増収により261百万円の増益となり、黒字での着地となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	5,902百万円 (前年同期 4,645百万円 / 前年同期比 27.1%増)
営業利益	226百万円 (前年同期 △35百万円)

### ③ Global事業

当セグメントには、日本国外で展開するEC・卸売、店舗、メディア等のサービスが属しております。

売上高におきまして、EC・卸売では、中国の越境EC事業が前期第4四半期の6月まで行われていた現地におけるロックダウンの影響余波により、前年同期比では減収となっておりますが、徐々に回復しており直近四半期比では増収となりました。また、香港店舗では、前期に不採算店舗を3つ閉店しましたが、残りの3店舗が回復基調にあるため、ほぼ横ばいでの着地となりました。結果としてGlobal事業全体では、前年同期比で若干の減収に留まりました。

営業利益におきましては、前期第2四半期に損益計算書を連結した韓国事業の不調により5百万円の赤字となりましたが、同事業を除外した場合の営業利益が黒字ということもあり、継続的な収益構造の改善で黒字化目前まで回復しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	1,024百万円 (前年同期 1,053百万円 / 前年同期比 2.7%減)
営業損失(△)	△5百万円 (前年同期 △35百万円)

### ④ その他事業

当セグメントには、美容部員を派遣する人材派遣事業と、創業間もない企業も含め幅広い成長ステージの企業に投資する投資育成事業が属しております。

人材派遣事業におきましては、稼働人員の増強を図ったことや新型コロナウイルスの影響が徐々に緩和されたことを受け、増収となりました。

営業利益におきましては、人材派遣事業における人員増強により人件費が先行したことで一時的に赤字となりましたが、営業投資有価証券の売却益により、セグメント全体では黒字での着地となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	307百万円 (前年同期 224百万円 / 前年同期比 37.1%増)
営業利益	1百万円 (前年同期 12百万円)

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産の部

当第1四半期連結会計期間末における資産の額は、前連結会計年度末に比べ5,616百万円増加し、27,784百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の額は、前連結会計年度末に比べ5,554百万円増加し、18,482百万円となりました。これは主に、現金及び預金が4,611百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が268百万円、商品が607百万円増加したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の額は、前連結会計年度末に比べ62百万円増加し、9,303百万円となりました。これは主に、投資有価証券が307百万円減少したものの、有形固定資産が345百万円増加したこと等によるものであります。

### ② 負債の部

当第1四半期連結会計期間末における負債の額は、前連結会計年度末に比べ4,540百万円増加し、18,056百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の額は、前連結会計年度末に比べ409百万円増加し、12,095百万円となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が124百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が621百万円増加したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の額は、前連結会計年度末に比べ4,131百万円増加し、5,961百万円となりました。これは主に、転換社債型新株予約権付社債が4,000百万円増加したこと等によるものであります。

③ 純資産の部

当第1四半期連結会計期間末における純資産の額は、前連結会計年度末に比べ1,076百万円増加し、9,729百万円となりました。これは主に、2022年9月7日付でトリプルフォー投資事業組合より第3回無担保転換社債型新株予約権付社債の権利行使を受け新株に転換した結果、資本金が500百万円、資本剰余金が500百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年8月15日の決算短信で公表しました当連結会計年度の業績予想は、新型コロナウイルスの影響が徐々に収束することにより業績が改善することを前提としております。しかしながら、その前提と今後における実際の社会・経済情勢が相違し、業績予想と実績に乖離が見込まれる場合には、速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,828	10,438
受取手形、売掛金及び契約資産	3,153	3,421
商品	2,331	2,938
営業投資有価証券	1,034	1,068
その他	652	688
貸倒引当金	△6	△6
投資損失引当金	△65	△65
流動資産合計	12,928	18,482
固定資産		
有形固定資産	1,367	1,712
無形固定資産		
のれん	1,488	1,400
ソフトウェア	2,412	2,332
その他	376	429
無形固定資産合計	4,277	4,161
投資その他の資産		
投資有価証券	1,371	1,064
敷金及び保証金	1,796	1,866
その他	460	529
貸倒引当金	△30	△29
投資その他の資産合計	3,597	3,430
固定資産合計	9,241	9,303
資産合計	22,168	27,784

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,419	2,040
短期借入金	1,500	1,500
1年内返済予定の長期借入金	6,428	6,304
未払法人税等	117	85
賞与引当金	183	172
その他	2,039	1,994
流動負債合計	11,686	12,095
固定負債		
長期借入金	1,728	1,652
転換社債型新株予約権付社債	—	4,000
その他	101	309
固定負債合計	1,829	5,961
負債合計	13,516	18,056
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,756	5,256
資本剰余金	3,937	4,437
利益剰余金	△983	△882
自己株式	△280	△280
株主資本合計	7,430	8,531
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	319	154
為替換算調整勘定	705	691
その他の包括利益累計額合計	1,024	845
新株予約権	1	143
非支配株主持分	198	209
純資産合計	8,652	9,729
負債純資産合計	22,168	27,784

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年9月30日)
売上高	7,784	9,200
売上原価	4,130	4,864
売上総利益	3,654	4,336
販売費及び一般管理費	3,883	4,100
営業利益又は営業損失(△)	△229	237
営業外収益		
受取利息	0	1
助成金収入	4	1
為替差益	4	38
債務免除益	4	—
その他	2	12
営業外収益合計	13	52
営業外費用		
支払利息	13	13
投資事業組合運用損	3	4
持分法による投資損失	2	9
遊休資産諸費用	—	42
支払手数料	—	60
その他	3	2
営業外費用合計	22	130
経常利益又は経常損失(△)	△238	158
特別利益		
新株予約権戻入益	14	0
段階取得に係る差益	114	—
特別利益合計	128	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△110	158
法人税等	△61	44
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△49	114
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	13
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△52	101

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△49	114
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	△6
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△159
為替換算調整勘定	13	△15
その他の包括利益合計	22	△180
四半期包括利益	△27	△66
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△32	△77
非支配株主に係る四半期包括利益	5	11

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年9月7日付でトリプルフォー投資事業組合より第3回無担保転換社債型新株予約権付社債の権利行使を受け、新株へ転換いたしました。この結果、資本金が500百万円、資本剰余金が500百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が5,256百万円、資本剰余金が4,437百万円となっております。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、当第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント					調整額 (注) 1 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 (百万円)
	On Platform 事業 (百万円)	Beauty Service 事業 (百万円)	Global 事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高							
一時点で移転される財	—	4,645	960	3	5,608	—	5,608
一定の期間にわたり 移転される財	1,862	—	93	221	2,176	—	2,176
顧客との契約から生じる収益	1,862	4,645	1,053	224	7,784	—	7,784
外部顧客への売上高	1,862	4,645	1,053	224	7,784	—	7,784
セグメント間の内部 売上高又は振替高	85	△0	1	2	89	△89	—
計	1,947	4,645	1,054	227	7,873	△89	7,784
セグメント利益又は損失 (△)	240	△35	△35	12	183	△412	△229

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△412百万円は、セグメント間取引消去1百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△412百万円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間において、Glowdayz, Inc. の株式を追加取得し連結子会社化したことにより、「Global事業」セグメントにおいてのれんが1,092百万円増加しております。のれんの金額は、暫定的な会計処理を行っていましたが、第3四半期連結会計期間において確定しております。なお、金額に修正事項は生じておりません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント					調整額 (注) 1 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 (百万円)
	On Platform 事業 (百万円)	Beauty Service 事業 (百万円)	Global 事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高							
一時点で移転される財	—	5,902	836	—	6,738	—	6,738
一定の期間にわたり 移転される財	1,967	—	188	303	2,458	—	2,458
顧客との契約から生じる収益	1,967	5,902	1,024	303	9,196	—	9,196
その他の収益	—	—	—	4	4	—	4
外部顧客への売上高	1,967	5,902	1,024	307	9,200	—	9,200
セグメント間の内部 売上高又は振替高	101	6	9	5	121	△121	—
計	2,068	5,908	1,033	313	9,321	△121	9,200
セグメント利益又は損失 (△)	393	226	△5	1	615	△378	237

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△378百万円は、セグメント間取引消去1百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△379百万円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。